京城新聞

滑稽なる談話

不及生

▲一昨十八日京城日報の東京電報欄に伊藤統監が某子に於てある人に語られたる談話なりとして左の如く報じてあつた、「韓國に大任あり、到底樞密院に入るを許さず、又民長官撰は適任者を得ると民團經濟上より勵行したるものなり、反對說は總て無意味のものなり」

此れで見ると伊藤の爺さん、いよ／＼以て耄碌したものと見ゆる、揚げ足を取るのも寧ろ氣の毒な感があるが、第一初ッ鼻の言ひ草は何んといふ事であらうか繰り返へして言ふが「韓國に大任あり、到底樞密院に入るを許さず」と、到底正氣の沙汰ではない

▲回顧すれば今より僅か一ヶ月以前、公が韓國を出發して馬關に上陸し、ソレより順次沿道の悠遊を經て帝都に入り且つ帝都到着後も、往訪の客に向つて語られた所は如何なることであつたらう、豈夫今更ら忘れなさる氣遣はあるまい、邪は外でもないが「乃公の樞密院に入ると入らざるとは之れ乃公の關する所にあらず、要は　聖上の思召如何に由るのみ」と、仰せられたことをヨモ忘れではあるまい、當時余輩は公の言辭が例に依りて瓢簞鯰的にして更に取り留めのない巧妙なるに、今更ながら感服したが併し其の舌根未だ乾かざるに斯のやうな傲然たる言辭を耳にしやうとは神ならぬ身の夢にさへも思ひ設けて居らなかつた、而り公が何事にまれ直きに衰龍の袖を楯に取りて、言葉を左右にするのは、公が常套手段であるから、マツ此れも今更ら致し方ない譯で

▲ソレから又下の段を繰り返へして言ふが「民長官撰は適任者を得ると民團經濟上より勵行したるものなり、反對說は總て無意味のものなり」と、何んと馬鹿／＼しい言ひ草ではあるまいか否な固より官憲としての地位からソウ來るのは至當ではあるが、併し居留民を茶にして居るのも大概程度があつたものだ「第一反對說は總て無意味のものなり」とは何たる文句だらう、余輩の魯鈍なるソレが隨ッ張り腑に落ちない、イヤサ憲法を制定し輿論政治を讃美した公にしてありながら民論の唱導する所は、徹頭徹尾效力のないものであるといふ意味でもあるまいが併し此言辭に徵して見ると什麽してもソウは思はれない……總て無意味……然り……總て……

▲要するに單に公許りではなく、凡て官憲の命令に背ひた民論は、何んでも彼でも反對だとイヤに捻れて考へるから誤つて居るのである、民論は官憲の意見は意見として能く双方理のある所を參酌し、道の存する所を選按し相互好意的の態度を以て事に當つて行くのが文明國に於ける爲政家の方針であるのにも拘はらず昨今の遣り口を見ると官憲は官憲、民衆は民衆で、其の間に區劃を立て居るやうに思はるゝが、特に公の「反對論は凡て無意味なり」といふ文句はツマリ一般居留民の反感をますゝ昂上せしむるのみで之れ百害ありて一利なき言葉と言はねばならぬ、

●農商工部の注意要件

農商工部は今回各道觀察府に對し左の注意要件を通告せり

今や當國に於ける農商工其の他萬般の實業に關する施設は着々實行の途に就きつゝあるも昨年以來暴徒各地に蜂起し實業に從事する者を迫害し斯業の發達を阻碍せるは頗る遺憾とする所なり近頃暴徒漸く其の影を沒するに至りしと雖も尙一層各位の御盡力に依り實業に從事する者は內外人の別なく安意業を營ましめ以て斯業の發達に資せられん事を望む尙本部所管に關する事項に就き各位の注意を乞ふ可き要件を述べん

農務に關する事項

獸疫豫防本文は曩に報導したる警察部長會議に於ける同部の注意事項に大同小異なれば此れを略して獸疫豫防に關する項のみを揭げん

一、獸疫發生並獸畜斃死の屆出を督勵すること
二、獸疫發生並獸畜斃死の屆出を受けたるときは警察官は現場に臨檢し獸醫なれば病性を鑑定せしむる事
三、獸疫發生せば其の旨發生地の要所に榜示し人民に警戒を與へ尙速に規定の報告をなすこと
四、獸疫發生せば病獸は其の厩舍に繋留し健獸は別舍に隔離し相互の交通を遮斷し又病獸所在附近には人畜を接近せしめざること
五、斃獸あれば警察官臨檢の上屍體は八尺以上の土坑に埋却すること
六、斃獸の屍體を運搬するときは口、鼻、肛門、陰門等を塞ぎ汚物の脫漏を防ぐこと
七、斃獸の肉、毛、皮、角、蹄、骨等は決して利用せしめざること
八、獸疫發生したる厩舍及び病毒に汚染したる物品は燒棄、埋却若は消毒を行ふこと、消毒藥なきときは熱灰汁を撒注すべし
九、病毒に汚染したる厩舍には消毒を行ひたる後も可成永く獸畜を牽入れしめざる事
十、病獸の糞便其の他排泄物及び病獸に使用したる敷藁、飼料等は散逸を防ぎ一定の場所に收集して此れを燒却すること
十一、獸疫流行地に於ては獸畜の放牧、往來、賣買、讓渡等をなさしめざる事
十二、獸疫流行地に於ては家畜市場の閉鎖を命ずる事
十三、其の他日本の獸疫豫防心得を參照して隔離法、交通遮斷、斃獸の處分、消毒法等を勵行する事
十四、左に牛疫、炭疽、流行性鵞口瘡の病性を略記す

（一）牛疫　牛疫は牛屬固有の傳染病にして其傳播極めて迅速、斃死夥多にして獸疫中最も險惡なる病とす、主なる徵候は眼、鼻、陰等より漏液あり且大に流涎し劇しき下痢を發す口內及び陰門內に糜爛して赤色の爛斑を呈す病狀は遲に羸弱し終に虛脫し大約一週日を經れば斃る斃死の割合は百頭に付約九十乃至九十五頭なり

（二）炭疽　炭疽は凡ての獸類に發する危險なる傳染病なり本病は俄然發生し急劇の經過を取り多くは一日乃至三日以內に斃死す其の主要は徵候は口、鼻、肛門等より血液を漏し斃る往々前夜壯健の獸翌朝に至り斃死するを見る事あり斃死の割合は百頭に付七十頭乃至九十頭とす

（三）流行性鵞口病　流行性鵞口病は一名口蹄疫と稱し牛屬に發する傳染病にして口內及び趾內の皮膚及び乳房に水泡を發するを主とす傳染力は極めて迅速なるも病性善良にして二三週間にて治癒し斃死は皆無若くは百頭中僅々一頭に過ぎず

●七月中の京城商況

（京城日本人商業會議所）

●石油● 本月も時候柄として賣行良好ならざるも昨年の同期に比するときは韓人の需用增加の結果賣行良好なり相場は錨印一箱に付十錢方下落を示せり

●セメント● 各種共目下諸工事の盛なる爲め需用多く最も賣行良好なり値段に於ては格別の變動なし

●木材● 本月も前月に引續き建築事業盛なるに伴ひ好況なるも昨年の同期に比すれば約二割方需用減少せり然れども板及小角物の類は諸條鐵等の爲め比較的賣行多く値段は前月に比し約五分方下落を示せり

●板硝子● 本月も建築材料用の如きは引續き需用多く益々好況なり殊に邀條入硝子の如きも追々需用多きに向ひたり値段は本月中變動なかりしも充分の强含みにて越月せり

●薪炭● 暑季需用者少なきは免かれざる事なるも地方よりの出廻りも捗々しからざる爲めに値段に於ても前月に比し變動なし

●和洋紙● 本月は前月に比し稍々需用增加したるも著しき事なく市場沈靜の狀態なり相場は產地に於ける原料少なく相場騰貴の爲め自然當地の如きも幾分の騰貴を示せり

●官煙草● 七八の兩月は例年賣行不況なるも昨年同期に比すれば兩口切の如きは二倍以上に達したり七月下旬よりの降雨の爲め前月に比すれば稍や賣行減少せりと雖も憂ふべき現象にあらず相場に於ては變動なし

小說　新不如歸（八十四）

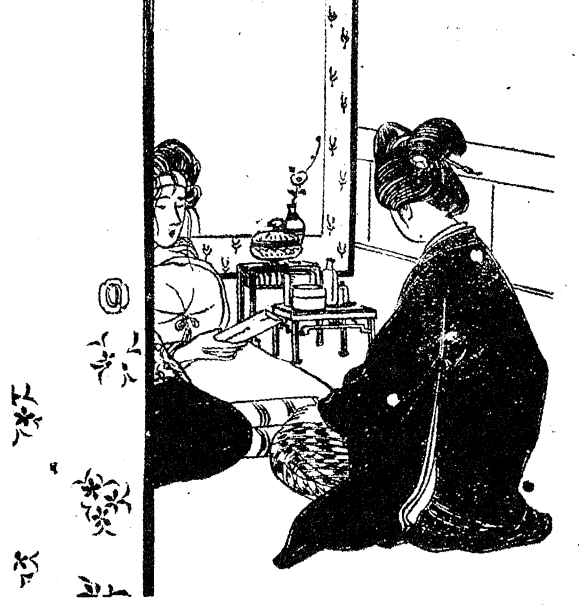
德冨蘆花著

母と共に大磯の招仙閣に病を養ひつゝあつた百合子は、漸次々々に病勢が募つて、今は床に臥したまゝ身動きも自由ならぬ、憐むべき容体となつたゆゑ、遂に四月の始め再び東京なる我家に歸ることゝはなつた。

五ヶ月あまりの病ひに、さらぬだに痩たる身は骨と皮のみとなつて肉と云ふものは全身の何れにも有りと思へぬまで痩せ凋び、白かりし花の色は透き徹るまで靑白めて、曾ては大方ならず若き紳士の注目を惹ける黑髮のみ昔を偲ぶ便となつて、亂れながらに枕上に垂れて居る、汽車に搖れたのが太く疲れきつたる體に障をなして我家に歸つて床に橫はると共に、急に容体が變つて、昏々と睡つたかと思へば、やがては見るに忍びない程苦しさうな咳が出て果は夥しく咯血するのである。

槇子は涙ながらに背を擦り、清子も涙を流しつゝ靜に足を擦つて居る。

夜は最と更けて、部燈の光のみ冴々として八疊の室を隈なく照し、すや／＼と眠る百合子の顏は大理石の神像の如く神々しく見ゆるのである。



寺田醫學士は、急使に應じて駈付け、枕頭に座して眺と病人の容子を瞶めて居る、白姉は消毒した咳壺を運んで、無言に醫學士に扶掖してそれに擦へる、室內は夜と共に深沈として、大きな息一つ出すものもなく唯、百合子の呼吸のみ苦しさうに聞ゆるのである。

槇子は氣遣しさに微かな聲を出して、

「如何でございませう。」

と、醫學士に問ひ試むれば、些と首を傾て

「左樣……」

と、云つたきり、尚も病人の呼吸を量りつゝあつたが、やがて極めて力ない調子で、

「どうも面白くないですなあ。」

と、これも低聲である。

すると、百合子はパッチリと目を開いて、そして微な聲を出して、

「姉さん。」

と、呼びかけた、清子は擦りつゝあつた手を止めて靜に、枕頭に近き、

「百合さん、姉さん來ましたよ、少しは樂になりましたか、何か御用なの。」

「はあ、些と人拂ひして下さいな。」

「然うか承知しました。」

かくて母を始め一同は次の室へと遠慮した、清子は靜な聲で、

「皆な彼方へ行きましたから、言ひたい事があれば、何なりとお話しなさいよ。」

と云つて百合子の顏をしげ／＼と眺めて、はら／＼と涙を零した。

百合子も涙の顏で嫂の顏を懷慕さうに眼仰げて、そうして悲しい聲で、

「姉さん。私只だ一つお願がありますがね、どうぞ承いて下さいませんか。」

清子は涙を袖に拭ひながら、

「な、なんなりとお言ひなさい、どんな願ひでも聞いて上げますよ。」

百合子は嬉しさうに、痩骨の如く痩せた手を伸ばして、枕の下より一通の封書と帕に包むだ品を取出し、

「姉さん……わ、わたしが亡くなつた后で、これを、誰にも內密で屆けて下さいな、一生のお願ひでございます。」

と、先づ書面を手に渡した。

「凱旋なすつたら、必然お屆けしますから御安心なさいまし。」

京城新聞

保護政治と邦人官吏

邦人小官吏を納るゝの不可

伊藤統監の保護政策に對しては余輩屢々反對の聲を揚げて其誤謬を指摘したりき、然れども未だ何は其誤謬なるを悟らざるものゝ如し、畢竟之れ余輩と伊藤統監とが保護政治の施設に就て見解を異にするが爲ならん乎、換言すれば出發點を異にするを以てなり、故に其實行の異なるは當然の結果なり、余輩は保護政治とは統監が責任を以て施政の改善をなすものと信ず、斯くせよと敎ゆるよりも斯く爲すべしと命令するものと信ずるなり、然るに伊藤統監の爲せる所を見るに責任を以て改善を計るに非ずして、斯くせよ斯くせざる可らずと敎ゆるに近し伊藤統監の保護政治は恰も顧問政治の如き觀あり、果して之れ保護政策の妙を得たるものなりや、唯夫れ立案以て指導するに止らば、何ぞ顧問政治と異ならんや、保護政治なるものは斯の如く權威なきものならんや、既に統監は施政の責任を負ふものとすれば自ら之に當らざる可らず、責任を負ふて其衝に當るものとすれば、內閣大臣の如き、地方長官の如きは、眞實に統監の意志を解するものを採用せざる可らず、大臣及び地方長官は少くも帝國の韓國保護に於ける眞意を解するものならざる可らず、然るに此等の大臣及地方官に或意味に於ては全く反對の意志を有せる韓國人を以てす、斯くの如くして保護政治の完全を期せんとするも到底不可能なり、意志の反對なるべき韓人を以て首腦となし、其部下に邦人官吏を配置して指導せしめんとす、伊藤統監は之を以て捨名取實の政策なりと云へり、事實は全然反對の結果を現はし余輩が屢々警告したるが如く、捨名捨實たるの觀を呈し來れるなり、既に首腦として其鍵を與ふ、部下に幾何の邦人小官吏を配置するも其効力の微々たるは當然なり、眞個其實績を擧げんとすれば、韓國保護に對する帝國の眞意を解する邦人を以て大臣及地方官となさゞる可らず、斯くせざれば邦人小官吏を如何に多數配置するとも到底施政の改善は期し難し、極言すれば此等多數の小官吏を擧て韓俗化するに終ると云ふも敢て過言にあらざるなり、斯の如くして失敗したる例は印度に於て安南に於てチュニスに於て既に見る所なり、伊藤統監の保護政治は帝國が維新草創に於て外人を雇用して顧問若くは敎師となしたるが如く、數多の邦人小官吏を傭はしめて徐ろに敎へんとするものゝ如し、我對韓政策は既に日暮れて道遠しと云へる場合なり、今は電光石火の施設をなさゞる可らず、保護國たる韓國に對して獨立國が外人を傭聘して學ぶが如き、或は顧問政治の如く、殆ど微溫湯的の政策は斷然排除せざる可らず、然るに此際亦も地方部衙に邦人官吏を配置せらるべしと、余輩は中央に於ても、地方に於ても多數の邦人官吏を採用せしむるは得策に非ずと信ず、此等の執務は宜しく韓人を使用せしむべきなり、既に多數の邦人小官吏を採用せしめたる事に就て一般の韓人に意外の反感を買ひつゝあり、之れ實に保護政治に於て害わりて利薄し、事甚だ小なるに似たれども之が爲に排日思想を昂上せしめたること幾干ぞ、要するに保護政治の眞意義が前述の如く統監が責任を以て自ら其衝に當りて、施政の改善を計るべきものならば、速に現制を打破して保護政治の完全を期せざる可らず、敢て當局の省慮を要請す、

●漢城便り

▲統監府と理事廳との關係は公使館と領事館との關係と同一なるものにや如何との問題此頃世間に提出致され居候此疑問は公使と領事と統監と理事官との官職性質の異同を極め候へば直ちに明瞭と相成可申候

▲假りに韓國を近世的の意義に於ける我保護國とすれば統監は理事官長にして中央政治の衝に當り理事官は地方官として地方政治の衝に當るべきものにて從て公使が外交の事を扱ひ領事官が居留民及貿易に關する事務を扱ふものとは根本に於て大差有之候

▲理事廳と統監府との關係は權限大小の差はあれ決して領事館と公使館との如く司宰の事務の全然異なるものには無之候殊更に統監府など〻名つくればこそ誤解も起るなれ總理事廳と稱せば何人も早解か〻致候事と存候

▲梁起鐸事件に關し司獄官吏の處分は免れざるべきところなるも去迚今度の如く早手廻しに處分云々を廣告するにも當らざることゝ存候相手方の英總領事は甚だ落付き居れり當方もまづ落付きて當面の問題を決し而る後司獄官吏を處分するも決して遲からずと存候

▲郡守の賣買取引は目下熾んに行はれ居るとの地方通信は日々記者の卓を堆く致させ居り候宋內部は素と一進會地方總長として地方官の弊を熟知するの人今日此際直ちに地方に出掛けて郡守の賣買を差止めざるべからずと存候

▲ニューヨークヘラルド通信員オール氏先立て記者を訪問致され候其節氏の申され候には統監府及韓國側の日本人大官中伊藤曾禰の兩氏を除けば少しく政治を了解したるものは只一の岡次官なりと思ふに岡君はオール氏を大に吹飛ばしたるなるべし如何

東京電報

▲特許局審査官任命

統監府特許局審査官其他左の通り任命あり

任統監府特許局技師兼審査官 叙高等官四等　特許局技師　安藤勝

任統監府特許局審査官叙高等官四等　特許局審査官　杉田謹之助

任統監府特許局審査官兼技師 叙高等官四等　同　塚本信次

特許局審査官補　有賀啓太郎

任統監府特許局審査官叙高等官七等　同　白井良一

雜報

●東京經濟雜誌所論 韓國居留民團民長の官選

韓國に在留せる我が同胞が居留地民團法及び其の施行規則に依り公法人として自治体を形成し民團議員を公選して自治の議政機關と爲し民長を選任して自治体の行政を執行せしむるもの現今十個あり京城、仁川、釜山、平壤、元山、大邱、木浦、鎭南浦、群山及び馬山是なり、是等の自治體は我が勢力を韓國に扶殖し我が對韓政略を貫徹する爲には最も重要なる策源地にして其の盛衰は韓國に於ける我が勢力の消長をトすべきものなり而して其の隆盛を期するの方法は一にして足らずと雖要するに其の團結を鞏固にし自治の精神を發揮せしめて完全なる獨立を得せしむるに在り而して過去二十年間の歷史は此の方針に向ひて進行せるものたることを證明するに於て餘りあるべし然るに統監府は今回何の感ずる所ありてか統監府令第二十三號を以て居留民團法施行規則の一部を改正し民長は統監之を任免すと改められたり是に於て各居留民團は恐慌を起し請願書を統監府に呈出して其の取消を請願し統監府御用新聞以外の新聞紙は何れも筆を揃へて民長官選の不當を攻擊し更に聯合大演說會を開きて之を攻擊し而して京城居留民團議員より呈出せる民長官選取消請願書の却下せらるゝや議員一同總辭職の擧に出でんとせしかば理事廳は其の辭職を思留まらしむると共に盡力せり遂に其形勢を察するに統監府にして民長官選の府令を取消さゞる以上は到底收まるべくも見わず結局各民團は一時に其の政治機關を失ふに至るやも測るべからざるが如し而して余輩は各民團の激昂を以て至當なりと認めざるべからず何となれば官選民長（若しありとせば）をも民選に改めざるべからざる次第なるに民選として發達せるものを故らに官選に改むるが如きは自治の精神に背戾せるの甚しきものにして要するに各民團を侮辱したるものなればなり

京城居留民團議員より統監府へ提出せる民長官選府令取消請願書に曰く官選民長は京城居留地二十餘年間の歷史を沒了するものなり民長官選は民團自治の本義に背馳するものなり今回の改正は將來に紛擾の禍根を貽すものなりと、是れ至當の理由なり統監府が敢て民長の民選を官選に改むるの理由如何、民長民選に於て從來幾多の弊害を認めたると民團の經濟に鑑み民長を理事廳の副理事に一任せしむるの法を採らんとしたること從來の實驗に據れば民團長は其の地方に直接利害關係を有する者以外より選出せられたるは甚だ不都合なるを殖民地の如き地方には成るべく統監府の監督權を擴張し置くの得策なることと等は改正の重もなる理由なりと云へり、果して然らば是れ角を矯めんとして牛を殺すと同一般なりと謂はざるを得ざるべし、民選の弊害は宜しく之を矯正すべし民團の政治は宜しく之を監督すべし、何ぞ民長を官選にして自治を破壞し之を侮辱するを要せんや、亦是れ明に統監政治の失策として數ふべきものなり

●仁川民長官撰問題

仁川居留民團に於ては別項の如く明二十一日午後七時より居留民會開會の節民長官撰問題に就て協議する筈にて足立議長より一般議員に宛通牒を發したりと云ふ

●旅中の韓太子

十七日夜大阪市はホテルに於て樂隊曲藝花火等を以て太子の旅情を慰めたり十八日朝太子より高崎大阪府知事山下市長へ紋章入銀盃を贈られたり太子には十八日午前九時港町停車場を發せられ青木奈良縣知事は天王寺に奉迎し車內の接待をなしたり十一時奈良着南圓堂を菊水樓に入らる午餐後春日山三笠山大佛等を巡覽し宇治に赴かる太子は春日神社に幣帛料大佛に香料を納め奈良學校に百圓を賜はり伊藤統監も五十圓を寄贈さる午後四時四十分奈良を發し宇治に向はる沿道の歡迎を受け五時三十分宇治に着し萬碧樓に入られ同町に於ける種々の歡迎の催し物を觀覽せられ十九日午後八時三十五分發車にて岐阜に向はれたり

●日韓關稅調査

目下大藏省に於て爲しつゝある關稅調査中韓國に對しては特別の審議を爲しつゝあり由來韓國に於ける關稅制度は頗る不完全なるものにして對外貿易港に於ける品目上の鑑定も至つて無責任にて課稅上の均衡を失し居るは普く內外人の認むる所にして相互貿易上の不利を生ずる事勘からざるより大藏省にては今回の關稅調査を機とし同國に於ける關稅課稅品目に就て十分なる調査を爲す事とし先般來同國各港在日韓官廳の手にて之れが調査中なるが九月中旬には大體の調査を終了する由

●土石採取事務の分業

土石採取規則の發布と共に國有土石を採取せんとするものは農商工部大臣の許可を受く可き事となりたるが農商工部にては執務上の便宜により寶石類、雲母、燐礦、泥炭等の採所許可に關する事務は礦務局に於て主掌せしめ普通の石材土砂に關しては山林局に於て取扱はしむる事となせりと云ふ

●公金缺逋者の處斷に就て

從來韓國官吏にして其の取扱に係る公金を費消したる者の處分法に關して公貨欠逋人處斷法なる特別法律を以て處斷し來りし處今般刑法改正に伴ひ右所謂法廢止せられたるが右は刑法に自盜及び官金費消を罰する條文ありて右以外に特に處斷法を存置する必要なく且該法に依れば缺逋人が費消金を國庫に濟勘するときは其の罪を免ずる規程あり却て不都合の廉ありたるによりたるものなり今後は右缺逋は刑法改正斷後を問はず自盜官吏若くは官金費消罪を以て處斷し尙不法徵收をなし或は公金を盜用したる場合には一切之を以て照律することゝなれり而して新舊法を比較するときは缺逋人は刑法改正に依り舊處斷法よりも重く處罰せらるゝ事となりたり今新舊處分法を對照せば左の如し

刑法 犯逋金額	刑期	舊處分法 犯逋金額	刑期
二圓未滿	八ケ月	二百元以下	一年
二圓以上十圓	九ケ月	二百圓以下	一年半
五十圓以上八十圓	十年	七百圓以上八百圓未滿	十年
百十圓以上	終身	一千圓以上二千圓未滿	終身

舊新法は終身刑を最重刑とすれど舊處斷例にては二千圓以上缺逋したるものは絞罪なりしは新法が舊法に比して寬なるも舊法にては缺逋金を濟勘する時は其の罪を免せしも新法は假令濟勘すと雖も其の罪を免せず本人の死後たりとも財產に對して濟勘せしむることを得る事となり居れり

●韓人辯護士試驗

法部は昨年四月初めて辯護士試驗を執行して七人の辯護士免許をなしたるが本年十一月十六日第二回辯護士試驗を執行する事となり志願者は十月三十一日迄に願書を提出すべく試驗委員は委員長に刑事局長金洛憲氏を委員に書記官淺田賢助同關本至德同崔鎭の三氏を任命せり而して本年の採用人員は別に制限なく合格者には皆免許を與ふる筈にして新裁判所開廳の結果各地方とも辯護士の必要あるに現今韓國の辯護士は全體にて三十名に滿たざる有樣なれば志願者も昨年より多かる可く隨て合格者も多數にして免許を得る者も昨年より多かるべきも法部は試驗並に人物の撰擇は此れを嚴格にすべしと云ふ

●仁川官民獻品協議

來る二十七日は現皇帝即位紀念第一週年に相當するを以て仁川府尹は官民協議の上獻品をなす計畫を立て本日午後三時仁川府に於いて仁川稅關、觀測所其他諸官衙員會合して其協議をなす筈なりといふ

●興英學校と慶善宮

麻浦在住の米穀商等は從來の慣例に依り年々金百二十圓を慶善宮に上納し來りしが昨年度は其取立なかりしかば商人等は協議の上同地の興英學校に寄附したるに本年は前年の例に依り之を取立吏に其金を太皇帝及び嚴妃の名を以て同校に下賜されたれば同校長は十七日午前十一時敎師及び生徒六十五名を引率し德壽宮大漢門前に至り太皇帝及び嚴妃の萬歲を唱へ謝意を表したりと云ふ

●金族の敎育事業

金海金氏の出身者は今回中部外相洞二統九戶に金海金氏宗約事務所なるものを設置し本月十五日關係者百餘名集會の上所長副所長評議員等の役員を選擧したり其目的は各自義捐金を募り金氏關係の子弟を敎育すと云ふにありて國の興隆は民族の親睦にあり民族の親睦は後進を敎育するにありと云ふ如き趣旨書を發したりと云ふ

●警備電話開通

議政府揚州間は八月十六日より安岳長連間は八月十五日より開通せり

●仁川居留民會

仁川居留民團に於て明二十一日民會を召集し午後七時より民團役所樓上に於て左の件に付第二十九回民會を開く筈なり

一 仁川居留民團海岸斗量出使用規則制定の件
一 明治四十一年度仁川居留民團歲出更正豫算
一 明治四十一年度仁川居留民團歲入出追加豫算
一 明治四十年度仁川居留民團一般特別會計歲入出決算
一 寄附金報告五件

●對淸貿易と會議所

近時對日貿易は益々不振を重ねつゝあるに反し對淸貿易は益々殷賑を呈し昨年中の貿易額は一年間に三百七十七萬圓なりしに本年は上半期間に二百八萬五千三十七圓の輸入額ありて又七月中に二十二萬圓の上海輸入額ありて尙益々增加せんとする傾向を示せり依つて京城商業會議所にては此現象を以て對外貿易上頗る憂ふべき者とし仁川稅關に向け數量及び價格の嚴密なる稅計を依賴し來り依つて以て對淸貿易のみかく繁盛せる原因を調査し居れり

●市原氏上京

第一銀行の市原盛宏氏は靜養の爲來る廿四五日頃東上せらるゝとの事なり

●中西讓一氏

東洋拓殖會社の創立用務を帶び來城中なりし同氏は本日出發歸京せられたり

●梅博士歸京期

北韓地方視察中なりし韓國法典調查局顧問法學博士梅謙次郎氏は來る二十一日歸京さるゝ筈なり

●松井局長の西海岸巡視

松井內部警務局長は韓國西海岸の警察事務及び民情視察のため境警視を隨へ昨日午後仁川發の流船にて出發す往復十四日間の豫定なり

●三土學部囑托の歸朝

既報の通り代議士三土忠造氏は今回學部の事務囑托を解かれ昨日朝南大門發列車にて家族を引き纏めの上歸朝の途に就きたるが學部及び關係官廳學校等の職員其の他の見送り多數なりき

●道家鈴木兩技師の出張

道家鈴木の兩農商工部技師は平壤なる殖林地及苗圃の視察並に安東縣なる營林廠と事務打合せのため往復一週間の豫定にて今明日中に出張する筈なり

●臼井事務官の出張

法部事務官臼井水城氏は監獄事務及び流刑囚の狀況視察のため大邱、馬山、晉州、光州、濟州島、珍島、智島の各地に出張を命ぜられ本日午前八時三十分南大門發列車にて則近主事を隨へ出發す往復二十日間の豫定なり

●北川吉三郎氏

氏は今回韓國實業協會京城常任幹事となれる由なり

公人私人

▲木戶友輔（步兵二十三聯隊附一等主計）一昨日入京山本旅館

▲鹽谷五郎（帝國鑛產技師）同上

●近事片々

▲亦しても伊藤公の事を書かねばならぬ片々も最早飽き果てたり噫何たる因果ぞや

▲伊公の極相を拒むには底もあり蓋もある事決極優詔下りて就職すべしとの評判也

▲治外法權の撤去を成就する迄は統監を辭せじと力味るゝも其邊は只知る人ぞ知る

▲伊公　餅子に火酒を煽りつゝ氣焔萬丈例の乃公を振廻はし舌鋒當り難しと甚だ御機嫌

▲日く　日本人の對韓思想は淺薄也多く韓人を愚劣視するも韓人却て邦人の愚を笑ふ

▲內地に於て如何に攻擊したり迚意に介せざるも能く異相を見よと時々聲音を吹く

▲唯だ注意すべき我保護政策は列强の注視する所なれば例に依りて列强を憚れり

▲如何に酒間の豪語と雖も日本人の對韓思想は淺薄也とは何たる無禮の言辭ぞや噫

▲統監政治にして眞に良好ならば誰か反對せんや密で謳歌せん世評は意外に公平也

▲梁起鐸に對する英領事の態度に就ては批難の聲高まり來る同盟國たる好意なき乎

▲國際關係は小問題と雖も意外の所に飛火することあり其局に當る者注意を要す

▲吉泳洙久し振にて漢城に現はれ大同會に入會したりとは眞乎果今後の擧動は如何

▲一時は漢城政界に於ける大立物として評判されし男排日行動に依り一敗地に塗る

▲今回の出現は何事を成さん爲乎大同會を引提げて一進會に當るとの說は異なりや

▲渠の背後には負保商ありて常に一の勢力となりしが今回も亦此勢力を利用する乎

▲排日派の統領にて李容翊と提携して飜けり今や容翊逝てなし追懷無限の感あらむ

▲屠僕より漢城府尹に登り宮中に信を得たる殆ど李容翊と軌路同じ亦一個の豪傑家

▲併し吉泳洙全盛時代の如く宮中に入り勢力を得る時は去れり勢力扶殖の手段如何

▲亦も排日行動をなさば彼の運命も茲に盡くべし着實なる方法に依りて經營すべし

▲宋內相愈々來月中旬地方巡視に出掛るとの事まづ結構此巡視地方改善に効あらん

▲澤田地方局長隨行せらるべし　能く地方弊政の根原を探究し病根に向て斧を入よ

▲米國は日本大博委員ルーミス氏を打合せの爲め來る廿五日日本へ派遣せんと云ふ

▲然るに日本では準備所か延期說さへ擡る始末萬國博覽會[illegible]會長の更迭は必要也

短篇小說

指環　上の二

靑楓作

「立見君……君は其のレターを讀んで如何思ふか僕は煩悶に堪へないよ、無念の涙が湧くぞ」

立見は、手紙を捲き收めて見たものゝ、夫れでも未だ返し兼ねて、激怒した中尾の顏と手紙とを等分に見比べて居る。

「僕は彼女の爲めには、十年苦學の成功は遂に失敗に終つた、开してたつた一人の老にし親父には不孝の子よと呼ばれ、弟妹からは見下げ果てたる兄よと怨まれ、多くの友からは信義に欠けた奴よと排斥された、だがそれでも僕は、芳さんと百年苦樂を倶にすることが出來ると思ふと、僕は此等の非難や迫害にはトント無頓着であつた、夫れを君……僕は實に殘無だ……ア、」

中尾は、口惜ろうによゝと許りに泣くのである、樹々の梢に狂ひ廻つて囀つて居た、群雀もいつか聲を收めて塒に歸つたのであらう、日も暮れて室内は眞暗、勝手知つたる立見は、起つてランプを點けるのであつた。

「蠻迴だ、君の心中は僕十分察するよ、だが芳子樣は、斯ふも決心したのであるから今更取り返しがつくまいと思ふ、だからまア斷念するより他に途があるまいよ、潔く斷念るさ」

立見の此の一言に、中尾の眼はキラリと輝いた、开して頭を俛れた彼の胸から、苦しそうに洩れ來る長大息は、寂とした部屋に肉な響を與へる。

「斷念、ア、自分は實際に芳さんを斷念することの出來る位ならば、なぞて斯樣に煩悶するものぞ、さりとはつれない友の一言が怨まれる世には男心と秋の空とやらの古例もあることだが、男心ばかりか女心も亦果敢ない、變り易い、賴みがたない心であらうか、だが芳さんに限つては……と信じて居つた自分の心は闇雲に蔽はれて居たのであらうか、否や〳〵そうじやないと、中尾は湧き來る思ひ出に少なからず胸の痛さを覺ゆるのである、斷念、如何して諦めることが出來やう、例令友が何んと言はふとも斷じて斷念はせんぞ、と再び繰り返して、君の此の戀成らずは……と齒を喰ひ縮めるのであつた。

「立見ッ、僕は絕体に斷念することが出來んよ、僕が斯ふ言ふたならば、君は定めし中尾は餘りに未練な奴だ、餘りに女々しい奴だと大口開いて笑ふであらう、併し僕は物笑の種となるとも、敢て不關焉はんよ、君も知つて居るだらう、僕は如何程芳さんに盡して居つたかを、ね、君、實に僕……僕は、芳さんに對しては、青春焔ゆるの愛……滾々として湧き來る愛の泉の涸渴ん程までに、渾身の愛を捧げて居たのじや、夫れを君は、諦めろと云ふのは、餘りに無情じやあるまいか」と襟を寬ろげて、輕く胸を叩く中尾の手は怪しくもブル〳〵と顫へる。

●八人組の韓强盜

昨年十二月初旬より同下旬に亘り京畿道廣州地方を荒らし良民をして戰々兢々として其堵に安せざらしめたる八名組の强盜あり其筋に於ては之を聞き直ちに密偵を派して之れが捕縛に力を盡しつゝありしが本月十五日未明銅峴分署の巡査二名は其犯人中の二名を捕縛するに至りたり今其顚末を記すれば犯人は八名にて一團となり各自兇器を携へ夜深け人靜まりて後其目指す家宅に侵入し家人を脅迫して財物を强奪したるものにて捕縛されたるは京畿道始興郡甘岳洞南班居朴泰仁(四十)同道果川郡果川面麥溪平民農宋弘奎(二十)の二名他は權順九、崔哥(名不詳)金奉乙、孫昌奉、崔巨福、李天一の六名にて此者等は未だ縛に就かざるものなり而して八名の者等は何れも體格逞しく各自長刀を振り廻はし大膽不敵の暴動なるを以て被害者等は之を見て虎よりも何よりも怖ち恐れ何等抵抗するなく彼等の掠奪に一任するに至れるを以て彼等は何の憚るなく悠々として財物を掠め去れり此に彼等が掠奪を逞ふしたる日時及び其金額等を記すれば十二月七日夜廣州郡上里金先達宅に侵入し十二圓二十錢を强奪せり同十一日同郡淸溪寺にて主僧を柱に縛し三十圓を奪ひ同十五日果川彼村甫宮宅に闖入し十六圓を强奪し同二十一日午後八時頃果川郡高先達宅に侵入し四十圓を、同二十八日夜同郡德場谷李告達宅にて十圓を同夜同郡上宿溪鄭參奉宅にて十五圓を、同三十一日午後一時同郡手滿里趙哥宅にて十圓を何れも兇器を閃かして脅迫したる上强奪し之を八名にて分配したる由自白したりと尙ほ他の六名の者共に對しては嚴重に索搜中なれば遠からず縛に就くに至るべし

▲▲▲同　小說豫告▼▼▼

……夏季の好讀物……

連日江湖の喝采を博しつゝある、悲哀小說「新不如歸」は愈いよ〳〵數日の中に全編を了り、名殘り惜しくも大方の讀者諸君をして、悽惋沈痛の餘情綿々として長へに禁ずる能はざらしめんとす、依つて本紙は更に從來の作者

篠原嶺葉氏に托し「皐月闇」

なる長編を掲げんとす、筋書は明治最近に於ける或る華族の家騷動を脚色したるもの、構想怪奇、情趣幽愴、或は佳人暗涙に咽び、盲兒夜陰に囁やき、肝夫世涎を慨する等、波瀾重疊、變化多樣、克く現今上流社會の裏面を抓羅剔抉して毫も餘蘊なし若し夫れ作者が洗練老熟の筆と、優婉華麗の詞とに至りては既に業に讀者の熟知する所、所謂情想、文彩兩ながら相俟つて正に錦上花を飾り、花下雪を飛ばすの美觀を呈するべし、請ふ讀者刮目して、掲載の日を俟ち、之が内容と實質とに就て徵せられんことを

▲▲▲次回　小說豫告▼▼▼

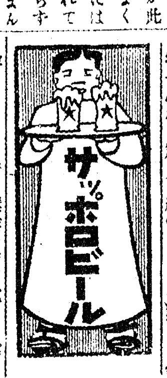
……夏季の好讀物……

白蓮花（一）

中署廣通橋附近に同德義塾といふ韓人の私塾あり日々數十の韓童通ひ來りて讀書講學に餘念なく咿唔の聲のさも賑々しく聞ゆるは之れぞ太平の祥としていとも喜ばしき氣象なるがサテ此の私塾の敎の庭に年の頃二十許りと[illegible]たつて品良き日本の女敎師が讀書に唱歌に懇なる敎の鞭を取り居ること日韓新協約訂結後の今日實にも喜ばしく又一しは眼立ちてぞ見ねにける。浮世小路の風荒く有爲轉變の理法は之れ等しく人生の免る能はざるものとはいへ此の女敎師ほど世にも亦憐れに氣の毒なるものも稀なるべし何を隱さう女の生れといふは奥州會津にて父は系圖正しき槍一本の武家姓名は曾野(夫の姓)ハル(二十)といひけるが此の娘幼少の頃よりいたつて學問の質がよくソレに天稟の美貌は奥州あたりの田舍には珍らしき程なるがナニはサテ人並勝ぐれて將來は必ず人に優つた立派な女に仕込まんの學問好き父の明け暮れの寵愛一方ならず娘が十六の春土地の學校を卒業するを待ち兼ね東京の實踐女學校へ入學せしめたるが父の熱心より娘の熱心と喜びは譬ふるに物なく必ず將來は立身出世して女ながらも一廉の人間になり濟まさんものをと父にも寳ひ神にも祈り螢雪の苦學孜々として一日とても怠りなかりしが人生の移り變りは何時如何なる場合に起り來るとも測られず女が丁度件の實踐女學校へ入學すると間もなく東京のある人より女の故鄕なる父の許へ宛て貴下の娘御は標緻も十人並勝れ且つ性質もしとやかにてソレに學問も優等なれば是非にさる所へ嫁御にれ世話申したく先方の當人といふは先年陸軍士官學校を卒業して今では正六位の位を辱ふする靑年大尉マヅ失禮ながら婿がねの地位として歷々たるもの貴下さへ御承知あらば娘御はヨモやれ厭とれつしやる氣遣ひは萬々有之とは思はれずイヤサ不仕附の談合にて嘸ぞや御立腹の節もあらふなれど何卒此の義可然れ納得の程をと細々と書面にて申し送りし所早速父よりの返辭として然らば御相談に應じ娘をば其の大尉とやらに遣はすべしとの寸法通りの返辭來りしより媒介人は意外にも事の早く運びたるに安堵し次で早速本人同士の親逢を東京に會見せしめ娘には父親よりコン〳〵と其の旨を言ひ含ませ爰に目出度も黄道吉日を撰びて華燭の典は金色燦く六枚屛風の裡に擧げられたりき(つゞく)

●因果は廻る小車

愛太平町往南大門の近くに丸萬といふいたつて怪しげなる小料理屋ありソコに宿の女將か將た酌婦かソレともきる緣あるものかは知らねど根をれろした銀杏返しに引ッ掛け帶の姿も意氣にソレに時々は長火鉢の前にて片膝立ての長烟管の持ち工合も什麽やら斯う唯の女とは見ねず大分通り掛りの猥連をして氣を揉ませ居るとかの噂さがダン〳〵兎耳子の耳に入りたればオヽソレよと許りに内々探索を遂げて見たところ案に違はず此の女こそ海山千年の古狸戀の諸分を嚙み分けて酸いも甘いも嘗めつくした泉ら物なるがサテ此の女の素性といふは花のお江戸は上野の眞ッ下なる不忍池畔のある藝者屋の抱へ妓にて而も名さへ梅香と名乘りて左褄を取り數多の鼻下長連を手玉に取り居りしものなるがサテ其の當時此の梅香の色香に迷ひて少なからぬ金を注ぎ込みしある旦那ありたり、其の旦那といふは日露戰爭の繪草紙にてもありさうな色の淺黑い口の締つた凜々しき將校なるが梅香も大分此の男には惜を寄せ心から解く下紐のツヒには嬉しき夢を結ぶにいたり果ては男の情を宿して頓て玉にも勝る男の兒まで產み落したりしかば男の喜びは譬ふるに物なく未來は天晴立派な軍人に仕立てんものと蝶よ花よとかい育てる間も日月の經つは矢の如く早や本年十二年のいだはなりにき(續く)



●隣りの鷄

南大門通り四丁目三番戶ボール箱製造入口市三郎(三六)は一昨十八日午後一時頃隣家なる金陳三(三七)が飼養し居れる鷄の一羽が垣の間より我が屋敷内へ侵入し來りしを以て市三郎は之を見て不埒な鷄奴人の家宅に一應の斷りもなく侵入し來るとは人間ならば家宅侵入罪で警察へ突出す所だけれど鷄だから慈悲を以て首縊めて勘燒にて晩餐の菜にして呉れると猿臂を延ばして之を引捕へ何處へか匿し何喰はぬ面にて平氣で仕事をなせしが陳三は飼養の鷄が行衞不明となりたればコツ多分隣りのボール屋サラミがボリ居るにはあらずやと同家に至りて斯く〳〵と語りて其行衞を尋ねたるもボール屋の主人はそんな鷄なんかは見たこともないから知ろう道理がないと空嘯き居れど陳三は此ナッゾンサラ怪いソイ夫れならそれでよしと許へより銅峴派出所に驅け行きこれ〳〵と訴へ搜索方を願ひ出たれば詰合の巡査もソツケツコーと放つて置く譯にも行かず市三郎方に出張して天井から床下に至る迄取調べたるに影も形もなければ陳三も落膽して泣き出さんとする時生憎くや押入の中より一聲コッケコーと鳴き出したるより其行衞は玆に判明せしもボール屋にては家內打揃ふて決して窃取したるものにあらずと辨じたるも巡査は承知せず兎に角刑法上の現行犯として一同を警察署に引致すべしと申渡したるに何れも色を失ひ謝り入りたるも一同銅峴分署に同行し取調べたるに戲れに隱匿したりとのこと判明せしかば嚴しく說諭の上放還されたりとコッケコー〳〵

○俗調　むら

宵は待ち、夜半はこがれ曉の、せめて現の面影の、夢になりとも通へよと、凝んとすれどうつし身や、夢ともならで窓の月。『立つ欄干や白蓮の、朝霧こめし池の面に、霞を破る響きけば、實にこれ聖者の大獅子吼。』戀に迷ひし罪の子の、耳にも尊くひゞく鐘の音。

●車に銜き當る　東大門內養土洞李相逸の實子壽吉(四つ)は十八日午前九時半頃他の二三の小供と遊戲して驅け廻りつゝありしが后洞派出所前にて一輛の壓芥運搬車に銜き當りたるも別に怪我はなかりしも顏色を失ひたるまでなりしと

●演藝だより

▲歌舞伎座　同座本晩の替り狂言は「九州男兒一名藝妓の遂引」十場にて場割及び重なる役割は左のし　一子爵秋山義尙宅、二子爵增田實、三謠曲宗匠宅、四料亭菊の家、五深田國五郎工事場、六𨿽町藝妓小光屋形、七同裏口、八元の座敷、九深田國五郎、十東京地方裁判所豫審廷、子爵秋山義尙(大山)深田國五郎妻れ新(桂)藝妓小光(吉野)義尙弟義成(へ山路)豆腐屋藤吉(小泉)子爵增田實(酒本)謠曲宗匠(北秋)劍客今川俊三(伊東)

▲壽座　壽町三丁目の壽座にては昨夜より鳴八一座の娘義太夫を開演せり

暑中御見舞

辯護士諸君へ　編輯小僧

世運の發達につれ、近時當地に於ける辯護士諸君の數は却々に相殖ゑ申候やう見受けられ候現角諸君の商賣は人氣商賣に候へば出來得る丈景氣をつくるは勿論にてマヅ第一に新聞廣告第二に玄關前の體裁及び應接所の裝飾第三に服裝の修飾第四に電話の架設等は其の重もなる要點かと被存候、マヅ見渡した所當地に於て業を營める諸君は大低此の四大要點を具備し居るやう被察候も又中にはチョッコン勝手向きの不如意から一概にさう計りも行かぬ向も有之とか聞き及び居候が尤も實質から申せば此等のことは何うでもよろしく唯專ら丁寧に迅速に誠實に依賴人の望に應ずるが肝要に候而し又虛名を衒はず又ヂミ偏せざるソコの兼合が諸君の商賣に取つてはナカ〳〵に六ヶ敷き點かと被存候

●天氣豫報（自十九日後六時　至二十日後六時）

南又は西の風晴

十九日午前六時各地氣象槪況

靜穩にし西部は槪ね晴天なれども元山大邱は雨と見たり



老妓 茶羅次の身上話(十六)

◎大津事件の車夫が求婚

露國の今の皇帝が未だ皇太子で日本にお遊びに入らしつた折御存じの大津事件で大騒ぎをして御褒美に金圓を澤山頂戴した人力車夫が二人あつたでしやう彼の時分には夫れが大評判でして我々共が座敷に聘ばれますとキツト其噂が出ない事はムいません でした、が向島の或御別莊で矢張其話が出た際にソンナ大層な金圓をれ上から頂戴した男なら人力車夫だつて宜いから是非御亭主に持ちたいことチつてな戯言をいつたのが何處を如何知れましたか其頃あつた浮世新聞に妾が戯にちやな顔をして兩杖をつき膝を屈げながら金澤に居る其人力車夫の所へ出掛けて往くポンチ畫が出ましたのですあと間も無く金澤から妾のところへ手紙が參りましたが文面が面白いので今だに持つて居ますから目に掛けましやう、夫れね「東京淺草區吉原仲ノ町見番にてれちやら樣、石川縣江沼郡庄村字加茂、北ケ市市太郎」として金澤郵便局の廿四年六月二日郵便の消印が立派に押してあるぢやアりませんか……イヽエ見たつてかまやしませんから讀んで御覽なさいまし

文して申上參らせ候いまだ御めもじ不申候へども ますます御さかん御めで度ぞんじ參らせ候しかれば私事今度は思かけず神佛の御陰をもちていささかの手柄仕りもつたいなくも御上樣をはじめ外國よりもれびたゞしき御ほうびをいたゞき身にあまり難有存じ上參らせ候つきましては此たびの手がらにより數ならぬ私事御したひ被下大まい二千五百圓の御禮まで御ばりこみとの御事新聞にて承り上なく喜び居り參らせ候 私事は無妻の事ゆゑ此ごろ諸方の無類飛切最上々々別嬪さま方より御ゑんだん御申入れ下され實にれらの御かたはみないなかそだちの人々にてなかなか東京仕上ことに吉原全盛の御前さまにくらべ申すべくもなし何とぞ出雲の神の御引合にて夫婦の縁御結びのほど新上參らせ候はたして新聞ぞをり御しんじつに候はばむさくるしき田舍に候らへども早く御はこびねんじ上候しかし俄出世の 私事仕居も百姓のあばら家にて御前さまなどの都人を一日もいれ申がたくすみやかにふしんに取かゝり申候間仕上しだい御しらせ申候はゝすぐさま御越のほど願上參らせ候しかしそれまで御めもじ申さず候てはあまりまり待遠をき事に候へばなにとぞとぞ御寫眞一枚御送り下され度御しやしんをはいし日々たのしみにくらし申度はやはや御れくりのほどまち入參らせ候まづはあらあらめで度かしく

六月三日 市太郎

わちやらさままゐる

京城本町壹丁目 コノサキ商店
電話六〇三番〔振替貯金口座一〇〇〇〕

營業品目

▲和洋雜貨類▼
○和洋文房具御小賣
○測量製圖器械尺度類
○最新式眞筆 謄寫版發賣元
▲諸官衙用達▼

新築落成入院隨意

眼科 内科 外科

松岡醫院

明治町壹丁目日本町座前
電話六七五

洋室新築落成御披露

時下酷暑之候大方諸彥には益々御勇健奉大賀候降而弊家皆々樣の御引立を以て日に增し繁榮に赴き候段難有奉拜謝候就ては江湖諸彥の御眷顧に酬ん爲め新に洋室を增築し尙左記の樂器を備へ置適宜娛樂に供すべく候間時節柄淸涼の慰安ども可相成候へば陸續御光來被下度偏に奉希上候也

一 琵琶 バイヲリン 尺八
一 笛 月琴 碁 將棋

但席料は一時間五十錢一時間以上は三十錢增三時間以上は一時間每に二十錢增にて申受候事

本町二丁目丁北 奧支那領事館前

春日

白井石材大販賣

京城永樂町三丁目(電話四八二番)

韓國煙草界ノ大發展ヲ見ヨ

新製品



發賣披露トシテ當分金貳錢五厘

親箱ノ意匠ガ頗ル高尙ニシテ贈物ニ好適ノ評アリ

今ヤ母國製品ヨリ優良ナル産物ヲ生シ得

廣江商會
電話二五七六

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金參百萬圓
積立及繰越金八拾萬圓

京城南大門通
株式會社十八銀行京城支店
(電話四二〇)

本店 長崎市築町
支店 出張所 京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、群山、羅州、大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐
日本 韓國 其他日本、韓國樞要地、及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口金壹錢以上何程にても御預り申候(利息日歩壹錢四厘)

長崎貯蓄銀行代理店 (十八銀行京城支店)

西洋洗濯業

セル、ラシヤ、和洋服

旭町二丁目理事廳裏
伊丹屋
(電話三七四番)

鰻丼 蒲燒

京城南山町三丁目

天金

民刑訴訟鑑定
登記漢城府手續
諸願屆代書
土地鑛山測量
集金取立代辨
土地家屋賣買金錢貸借其他諸般ノ仲介

京城本町一丁目 民役所前
岡田事務所
取次電話六二四

開業御披露

會席 御料理

本町七丁目南入

萩の家

貸地

一龍山元平式院前軍司令部拾五間道路左側約五千坪

但し五十坪を一區として割貸

右將來多望の地貸附申度候條御希望の御方は左記へ御來談被下度候也

京城明治町一丁目 森村太郎
京城本町二丁目 林田金次郎

提灯製造

並張替及瓦斯燈書替へ

弊店は業務確實にして仕事叮嚀なり

京城本町理事廳部裏通
藤井提灯屋

原金旅館

本店 仁川理事廳通(電話三二番)
支店 京城南山町(電話一〇七番)

神佛葬具請負 並に佛具販賣

貧困者は特志取扱申候

京城南山町四丁目(花月向)

左文字屋

取次電話八四九番



米國製 銀判 ボツクスキヤフ 繡上ゲ靴 六圓五十錢
獨逸製 銀判 ボツクスキヤフ 繡上ゲ靴
牛裁 ボツクスキヤフ 繡上ゲ靴 四圓九十錢
…キヤツ 繡上ゲ靴 三圓五十錢
白縮緬 ボツクスキヤフ 色繡上ゲ靴 五圓

京城本町一丁目理事廳橫通
富田製靴店

京城本町六丁目
富田支店

●地方より御注文の方は引換小包に應ず料金は殊に弊店にて相働き申候尙御足に合はざるときは御返戻の事

一消毒牛乳

御高評に背かず益眞正純良の品差上可申候

韓國畜產株式會社

京城南大門外
電話八八番

西洋御料理宴會

日本人俱樂部

京城南山町三丁目(電話一二三番)

韓國京城

株式會社 大韓天一銀行

電話五五八番

電話開通四九壹番

東京 生そば

京城壽町三丁目(高井醫院東隣)

東京庵

土管各種 煙管下瓶及植木鉢等品質内地品に勝るもの製造致し特別安價を以て販賣仕候に付多少に不拘御注文被下度候

製造販賣

永登浦韓人村
池田土管工場

京城

株式會社 第五十八銀行

電話番號五十八

資本金三百萬圓

爲替取組先

畿内 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、郡山、八木、高田、田原本、堺、貝塚、岸和田、岡彭、兵庫、神戸、平野、住吉、

東海道 靜岡、沼津、濱松、豐橋、名古屋、半田、熱田、龜崎、四日市、津、山田、桑名、松阪、

東山道 彥根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、多治見、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、若松、仙台、青森、秋田、七浦、能代、

北陸道 小濱、福井、敦賀、鯖江、金澤、大聖寺、高岡、富山、伏木、新潟、

山陰道 宮津、舞鶴、新舞鶴、豐岡、鳥取、米子、境、松江、濱田、久手、大田、

山陽道 龍野、明石、赤穗、姬路、西大寺、福敷、笠岡、庭瀨、高梁、玉島、西江原、倉山、鞆、府中、尾の道、三原、吳、宇品、廣島、岩國、宮市、三田尻、德山、小郡、山口、柳井津、平生、長府、小月、下の關、秋、

南海道 串本、御坊、田邊、新宮、和歌山、鳳、州本、撫養、德島、香通寺、丸龜、高松、八幡濱、川之石、宇和島、今治、郡中、西條、松山、三津濱、高知、

西海道 直方、飯塚、博多、福岡、若松、久留米、若津、中津、小倉、門司、行橋、後藤寺、佐伯、別府、長須、大分、湊(島原)、佐世保、唐津、伊萬里、牛津、呼子、長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿兒島、

北海道 函館、小樽、札幌、

台灣 臺北、臺南、

淸韓國 仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、羅州、大邱、群山、安東縣、

銀行一般の業務精々便利に取扱可申候

日本郵船株式會社

仁川瀛船出帆廣告

貨物及船客取扱店

仁川海岸通
郡回漕會
電話三十番

京城南大門通
巴商店
電話三〇六番

●釜山長崎門司神戶行 山東丸 八月卅日 後三時出
●大連、大沽、牛莊行 高砂丸 八月廿七日 後一時出
山東丸 八月 日 前五時出
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 八月 日 後一時出
●釜山出帆、元山淸津、浦鹽行 弘前丸 八月 日

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事

●定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西門通 京城新報社 電話六六三番